

# 「IS デジタル辞典」第二版の公開について

阿部 昭博<sup>1</sup>

**概要:** 「IS デジタル辞典 - 重要用語の基礎知識 -」は、情報システムと社会環境研究会の編集によるオンライン用語辞典である。初版発刊・公開から7年以上経過し、クラウドサービスやIoT、ビッグデータの進展など情報システムを取り巻く環境は様変わりした。2年余りの大幅な改訂作業を経て、このたび最新の動向を反映した第二版を公開することができた。本稿ではその改訂作業の経過と第二版の概要について報告する。

## Report on the Second Edition of “Digital Dictionary of Information Systems”

AKIHIRO ABE<sup>†1</sup>

### 1. はじめに

「IS デジタル辞典 - 重要用語の基礎知識 -」(IS 辞典)は、情報システムと社会環境研究会 (IS 研究会) の編集によるオンライン用語辞典として、2012年4月に初版が情報処理学会ホームページで公開された[1]。IS 研究会は、組織体や社会の活動に必要な情報の収集・処理・伝達・利用に関わる仕組みを広義の情報システムと捉え、1984年の研究会発足以来、我が国の情報システム研究における草分け的存在として活動してきた。これまで情報システムに関するハンドブックや事典類[2]~[9]などが出版されてきたが、技術や社会の進化に速やかに対応できるオンライン用語辞典の必要性が高まったことから、本辞典を企画するに至った。

それから7年以上が経過し、クラウドサービスやIoT、ビッグデータの進展など情報システムを取り巻く環境は様変わりした。また、情報システム領域を含む情報専門学科カリキュラム標準の10年ぶりの改定版J17[10]も公開された。世の中にコンピュータ用語辞典の類は多数あるものの、前述の情報システム視点に立脚した用語辞典はほかに見当たらないことから、教育コンテンツとしての必要にも迫られ、このたびの大幅な改訂となった。

### 2. 改訂作業の経過

改訂作業の経過について振り返る。2016年にIS研究会内で改訂に向けた議論が開始され、2017年には初版編集委員会によって辞典公開後の活用状況や改善点の調査結果が報告された[11]。これらを踏まえて、2018年初頭に、近年の動向に対応すべく編集委員を大幅に拡充した第二版の編集委員会がIS研究会内に設置された。

---

辞典編集委員会

編集幹事 阿部昭博

編集委員 居駒幹夫, 石川洋, 柿崎淑郎, 神沼靖子, 児玉公信, 雑賀充宏, 清水則之, 辻秀一, 中村太一, 深田秀実, 本田正美 以上, 五十音順

---

情報システムの研究領域を念頭に置いて、IS 辞典は「1章：情報システムの基礎」「2章：情報システムの開発・保守・運用とその技法」「3章：実社会の情報システム」の3章で構成されていることから、章ごとに3つのWGを編成し、機動的な編集体制をとった (○はWG主任)。阿部と柿崎は各WG間の横断的な調整を図りながら、IS 辞典全体の編集作業を統括した。

1章WG (○石川, 神沼, 中村)

2章WG (○雑賀, 児玉, 本田)

3章WG (○居駒, 清水, 辻, 深田)

編集委員会による編集プロセスは、初版同様に以下の通りとした。収録すべき項目を編集委員会で検討・確定した後、IS研究会内外の有識者を執筆者として選定した。執筆者から収集した原稿については各WGで閲読し、必要に応じて訂正や加筆を執筆者にお願いした。内容について議論を要するものについては、全体での編集会議で確認し、慎重に対応した。閲読完了後、校正およびデジタル辞典としてのシステム動作テストを経て完成とした。なお、改訂にあたり初版からの再録項目と新規項目の表記等の統一を図る必要があったため、本学会情報環境領域のプロジェクト助成を受けて専門業者による校正を実施した。

全体での編集会議は、計7回開催された。第1回編集会議にて、初版の編集方針 (学会が編集責任をもち、版管理を行うオンライン小項目辞典) や辞典基本構成を堅持しつつ、最新の動向を踏まえた項目の内容見直し・増補のほか、

---

<sup>1</sup> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部  
Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

ユーザインタフェースの改善に努めることなど、改訂作業の方針が確認された。以降、各WGの作業状況を全体の編集会議で共有し、工程管理と要検討事項への対応が審議された。くわえて、メーリングリストによる議論も継続的に行われた。

- 第1回(2018.3.5) 顔合せ、改訂方針の検討
- 第2回(2018.8.1) 改訂・追加項目の検討
- 第3回(2018.9.27) 改訂・追加項目と執筆者の確定
- 第4回(2019.3.4) 執筆依頼の進捗状況確認
- 第5回(2019.5.17) 入稿・閲読状況の確認
- 第6回(2019.7.5) 辞典公開システムの仕様確定
- 第7回(2019.9.13) 公開までのスケジュール確認

### 3. 第二版の概要

以上の経過を経て改訂されたIS辞典の第二版は、2019年12月1日に学会ホームページとIS研究会ホームページより公開を開始した[12]。また、これに合わせて、ISBN(International Standard Book Number)を付与したDVD版も初版同様に刊行した。辞典の編集・公開ツールとしては、初回同様にオープンソースCMSツールのWordPressを用いている。

IS辞典第二版の基本構成はオンライン辞典の形態をとっているが、初版同様に情報システムの学問的な分野としての位置づけを重視し、1章「情報システムの基礎」、2章「情報システムの開発・保守・運用とその技法」、3章「実社会の情報システム—分類と特徴—」から構成される(図1)。なお、初版も第二版からリンクし、引き続き閲覧可能である。収録された項目は、初版からの再録項目と新たに書き下ろした項目を合わせて457項目に達し、執筆者も初版の63名から大幅に増えて総勢99名となった。初版と第二版それぞれの項目数の内訳について表1に示す。

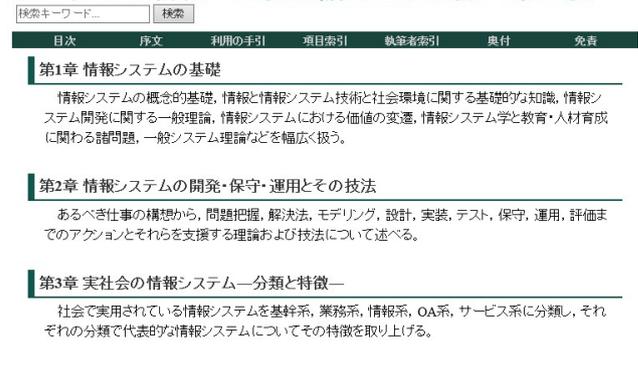
表1 収録項目数の内訳

	初版	第二版		
		再録	新規	合計
全体	332	332	125	457
1章	158	158	20	178
2章	113	113	56	169
3章	61	61	49	110

1章「情報システムの基礎」では、情報システムを取り巻く動向を踏まえて、特に重要と思われる用語を追加した。2章「情報システムの開発・保守・運用とその技法」では、ISO/IEC/IEEE 15288の2015年改訂に基づき、システムズエンジニアリングとその周辺の用語を大幅に追加した。また、各種国際標準改訂への対応として、システムライフサイクルプロセスなど既出項目について内容を見直した。3章で

は、社会で実用されている情報システムを基幹系、業務系、情報系、OA系、サービス系に大別したうえで、日本標準産業分類を拠り所に情報システムの分類を試み(図2)、その代表的な情報システムについて可能な限り取り上げた。これにより、見出しも「業種別情報システム化動向」から「実社会の情報システム—分類と特徴—」に改めた。そのほか、オンライン辞典としての利便性を高めるために、関連項目の提示、スマートフォン等に対応したレスポンシブウェブデザインなど、授業で利用している学生達からの要望も取り入れた。

### ISデジタル辞典—重要用語の基礎知識—第二版



© 2012, 2019 一般社団法人情報処理学会, 情報システムと社会環境研究会編

図1 第二版のトップ画面

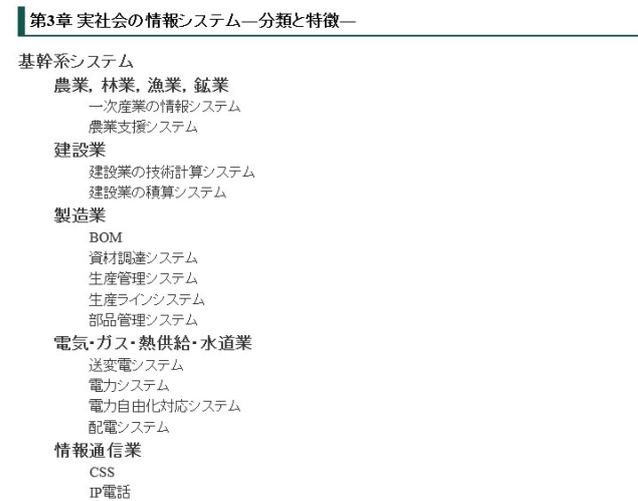


図2 3章「実社会の情報システム」の分類体系の一部

#### (1) 項目

辞典の各項目は、下記の要素から構成され、その記載においてはJIS準拠を原則とした(図3)。概要および説明の文中に辞典収録項目が出現する場合は、関連リンクによってその項目を参照できる。さらに第二版では関連項目によって、関連する項目を辿れるようにした。

- ・項目名 情報システムに関する重要用語。
- ・読み カタカナによる項目の読み。
- ・英語表記 項目の英語表記。

- ・概要 項目の定義にあたる文。初版では定義としていたものを第二版より概要に改めた。
- ・説明 項目説明文。必要に応じて、図表を付加。
- ・参考文献 必要に応じて、必要に応じて、項目に関連する主要文献や Web サイトについて記載。記載方法は、本学会原稿執筆要領に準拠。
- ・関連項目 必要に応じて、関連する項目へのリンクを提示。
- ・最終更新 編集委員会による項目の最終更新日と執筆者名を記載。

システム要求定義 項目名  
 システム要求定義 読み  
 System requirement definition 英語表記

**概要**  
 ステークホルダ要求をシステム要求に転換するプロセス。

**説明**  
 システム要求定義は、ステークホルダ要求を技術的な視点の解決策であるシステム要求に転換することである。システム要求定義では、ステークホルダの要求を満たすシステム特性、属性、およびパフォーマンスを特定し、検証基準を定める。システム要求定義は、対象システムのアーキテクチャ、デザイン、統合、検証の基礎となる。すべての要求にはコストが発生するため、ライフサイクルの早い段階で、完全かつ最小の要求を定義することが不可欠となる。システム要求定義での考慮すべき点として、必要な要求のみを特定していること、実装非依存(「何を」を定義し「どのように」は特定しないこと)、一義的、完結、単一、達成可能、検証可能、法規制に準拠していることが挙げられる。

**参考文献**  
 1. ISO/IEC/IEEE 15288:2015 Systems and software engineering – System life cycle processes.

**関連項目**  
 システムライフサイクルプロセス

**最終更新日**  
 2019.12.01.  
 雑賀充宏(編集委員会編)

図3 各項目の表示例

(2) 索引

- ・項目索引 項目名の索引。英字を先頭に含む項目名についてはアルファベット順に優先配列し、それ以外については五十音順に配列(図4)。
- ・著者索引 著者名の五十音順に配列。共著については連名で索引を付与。

(3) キーワード検索

項目名、読み、原語表記、定義、説明、文献のいずれかに指定したキーワードが含まれる場合、その項目の一覧を表示。

ISデジタル辞典 - 重要用語の基礎知識 -

項目索引

A-Z | 五十音

AHP スキル  
 As-isモデル スポット守り  
 BCP  
 BPMN | せ  
 BPR 生産管理システム  
 BSC 生産ラインシステム  
 CATWOE 製造物責任  
 CIO 正統的周辺参加論  
 CIO補佐官 生命保険システム  
 CRM 施工管理体制  
 Customer-Performerモデル セールオートメーション  
 OSS 全バックアップ

図4 項目索引の画面例

4. おわりに

本稿では、IS 辞典の改訂作業に関する活動とその成果である第二版の概要について報告した。改訂の構想から4年、実際の編集作業には2年余りを要した。情報システムを取り巻く環境変化のスピードを考えるともう少し更新サイクルを短くすべきであるが、学会員のボランティア活動によって定期的な増補を行いつつ学会が版管理を行うことで最新性と信頼性を確保する現行の辞典編集アプローチでは、これが限界なのかもしれない。今後の改訂に向けて、利用者からの新規項目提案を受け付け、項目を逐次更新するなど、オンライン辞典の特性を活かした編集形態についても引き続き検討の余地がある。

辞典に関するお問い合わせやご意見・ご要望は辞典編集委員会 [isdic-chief@ipsj-is.jp](mailto:isdic-chief@ipsj-is.jp) までお寄せ頂ければ幸いです。IS 辞典が、多くの研究者や学生、実務家の活動の一助となれば望外の喜びである。

謝辞

初版同様すべての執筆者には、無償のボランティアとしてご協力を賜りました。また、本学会情報環境領域のプロジェクト助成によって、専門業者による校正委託など編集作業の効率化が可能となりました。編集委員各位には、本務の傍ら2年に亘る煩雑な編集作業にご尽力頂きました。執筆・編集・校正などに関わられたすべての関係者に深く感謝致します。

参考文献

- [1] 情報システムと社会環境研究会編. IS デジタル辞典 - 重要用語の基礎知識 -, 情報処理学会, <http://ipsj-is.jp/isdic2012/> (参照 2020-01-31).
- [2] 情報システムハンドブック編集委員会編. 情報システムハンドブック, 培風館, 1989.
- [3] 情報処理学会編. 新版情報処理ハンドブック, オーム社, 1995.
- [4] Bidgoli, H. et al. (Eds.). Encyclopedia of Information Systems, Elsevier Science, 2003.
- [5] 情報システムと情報技術事典編集委員会編. 情報システムの実践 (全4巻), 培風館, 2003.
- [6] 国領二郎, 高木晴夫, 奥野正寛, 柳川範之, 永戸哲也, 浦昭二共編. 情報社会を理解するためのキーワード1, 培風館, 2003.
- [7] 細野公男, 中嶋聞多, 浦昭二共編. 情報社会を理解するためのキーワード2, 培風館, 2003.
- [8] 神沼靖子, 浦昭二共編. 情報社会を理解するためのキーワード3, 培風館, 2003.
- [9] 情報システムと情報技術事典編集委員会編. 情報システムのための情報技術辞典, 培風館, 2006.
- [10] カリキュラム標準 J-17, 情報処理学会, [https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/j07/curriculum\\_j17.html](https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/j07/curriculum_j17.html) (参照 2020-01-31).
- [11] 阿部昭博. 情報システムデジタル辞典の現状と課題, 情報処理学会研究報告, Vol.2017-IS-141, No.9, pp.1-4, 2017.
- [12] 情報システムと社会環境研究会編. IS デジタル辞典 - 重要用語の基礎知識 - 第二版, 情報処理学会, <http://ipsj-is.jp/isdic/> (参照 2020-01-31).